

群馬県における新生活運動の展開

「新生活運動」は、太平洋戦争終戦直後の疲弊した時代を背景に、生活を合理化して家計の負担を軽減させることを目的に始められた全国的運動でした。運動内容は多岐にわたりましたが、実際に取り組みされていた内容は「冠婚葬祭の合理化」が6割以上を占めていたと言われていています。

全国的に運動が下火になったと考えられる昭和50年代以降においても、群馬県内においては主に「香典を少額にとどめ、お返しを辞退する」といった葬礼の際の習俗として存続してきました。

ここでは、伝統的婚礼・葬礼習俗を踏まえた上で、群馬県内において、現在も習俗として残る「新生活運動」がどのように展開してきたのかを振り返ります。